

すてきな三にんぐみ

トミー＝アンゲラー 作
いまえよしとも 訳

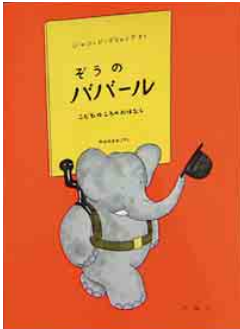


偕成社 1977年(初版1969年) 1200円

黒マントに黒い帽子の3人組の泥棒は、馬車を止めては人々を脅し、宝を奪ってためこんでいました。ところがある夜、獲物のかわりにみなしごのティファニーちゃんを連れて帰ってからは、宝を使ってお城を買い、捨て子やみなしごを集めて育てることになります。濃い青の背景に黒づくめの泥棒たちがくっきりと浮かび、赤や黄色が鮮やかに配された大胆な絵と、調子のよい簡潔な文が魅力です。

ぞうのババール

ジャン・ド・ブリュノフ 作
やがわすみこ 訳



評論社 1974年 1200円

森の国に生まれたぞうのババールは、母親を悪者の狩人に撃たれ逃げるうちに、初めて人間の町にやってきます。町は珍しいものばかり。服を着て、車に乗り、勉強もして、すっかり人間社会になじみ物知りになったババールは、やがてぞうの国に戻って王さまになります。ほのぼのとした絵やお話が親しまれています。シリーズは「ババールのしんこんりょこう」「おうさまババール」「ババールのこどもたち」などがあります。

だいくとおにろく

松居直 再話
赤羽末吉 画



福音館書店 1967年 743円

名高い大工が、流れの速い川の橋を架ける仕事を引き受けます。大工が流れる水を見つめていると、中から鬼が現れて、大工の目玉と引き替えに橋を架けてやろうと持ちかけます。いいかげんな返事をしているうちに橋は立派にできあがり、大工は目玉を取られそうになりますが、鬼の名前を当てれば許してやってもいいと言われ…。昔話によくある名あての話。迫力の中ユーモアのある絵です。